

2023年度 新入社員の意識調査 結果

1 はじめに

当社では、OKB総研主催の新入社員研修会の受講者を対象に意識調査を実施している。28回目となる今年度は、例年の質問に加えて、5年毎に実施している「新入社員の結婚観」について調査した。

2 調査概要

本調査の概要は下表の通りである。

3 今年の新入社員像

(1) 地元就職とUターン就職

「地元就職」が64.8%

「あなたは地元就職・Uターン就職・その他のうち、どれにあてはまりますか」と尋ねたところ、「地元就職」が64.8%で最も高く、前回調査(2022年度)から2.2ポイント低下した。「Uターン就職」は15.7%で、前回から2.6ポイント上昇した。

男女別に見ると、地元就職は男性

が56.8%、女性が73.5%と、前回と同様に女性の方が高くなった。Uターン就職は男性が20.9%、女性が10.1%と、男性の方が高い(図表1)。

(2) 就職先の選択基準

「業種・事業内容」「雰囲気・イメージ」を重視

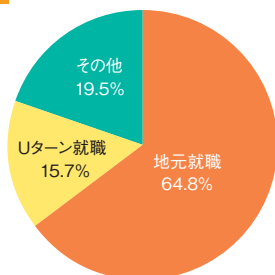
入社を決めるにあたって何を重視しましたか(3つまで選択)と尋ねたところ、1位は「業種・事業内容」(57.0%)、2位は「雰囲気・イメージ」(41.0%)、3位は「休日・勤務時間」

- (1) 調査対象：岐阜県・愛知県等の企業223社の新入社員
- (2) 調査時期：2023年3月29日～4月10日
- (3) 調査方法：OKB総研主催の新入社員研修会受講者(746人)に無記名方式で実施
- (4) 有効回答者数：395人(有効回答率52.9%)
- (5) 回答者属性(下表のとおり)

		全体	男性	女性
有効回答者数		395名	206名	189名
平均年齢		21.2歳	21.3歳	21.0歳
最終学歴	高校卒業	30.6%	26.2%	35.4%
	専門学校卒業	9.1%	8.7%	9.5%
	短期大学卒業	5.8%	4.4%	7.4%
	4年制大学卒業	50.1%	57.3%	42.3%
	その他	4.3%	3.4%	5.3%
居住地	岐阜県	54.7%	56.3%	52.9%
	愛知県	34.7%	34.0%	35.4%
	三重県	1.0%	1.0%	1.1%
	滋賀県	3.8%	4.9%	2.6%
	その他	5.8%	3.9%	7.9%
業種	建設業	11.6%	15.0%	7.9%
	製造業	43.3%	45.1%	41.3%
	卸売業、小売業	12.4%	11.2%	13.8%
	医療・福祉	6.6%	3.9%	9.5%
	サービス業	7.3%	5.3%	9.5%
	その他	18.8%	19.5%	18.0%

(*) 端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある(以下同じ)。

図表1 地元就職とUターン就職



地元就職とUターン就職(前回比較)

(%, %ポイント)

	全体			男性			女性		
	2022年度	2023年度	前回差	2022年度	2023年度	前回差	2022年度	2023年度	前回差
地元就職	67.0	64.8	▲2.2	61.8	56.8	▲5.0	72.0	73.5	+1.5
Uターン就職	13.1	15.7	+2.6	16.3	20.9	+4.6	10.1	10.1	0.0
その他	19.9	19.5	▲0.4	21.9	22.3	+0.4	18.0	16.4	▲1.6

(34.2%)となった(図表2)。

男女ともに1位の「業種・事業内容」は、男性では前回から4.2ポイント上昇した一方、女性では5.8ポイント低下した。男性は「会社の安定性」(36.9%)が5.4ポイント上昇し、「雰囲気・イメージ」(34.5%)と順位が入れ替わり2位となった。「給与・ボーナス」は、男性では21.8%(前回差+8.3ポイント)、女性では25.4%(同+9.0ポイント)と男女ともに上昇した。

(3) 将来就きたい地位

「一般社員志向」が過去最高

「あなたは将来どんな地位に就きたいですか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、1位は「特殊能力・技能のあるスペシャリスト社員(以下:スペシャリスト志向)」で31.9%、次いで

「一般社員のままだよ(以下:一般社員志向)」が26.1%、「部長・課長・主任などの肩書のある管理職(以下:管理職志向)」が21.8%となった(図表3)。「一般社員志向」は2年度連続で上昇し、データをさかのぼれる1996年度以降、過去最高となった。

男女別に見ると、男性は「スペシャリスト志向」が34.5%で最も高く、前回から3.0ポイント上昇した。次いで「管理職志向」が30.6%で、前回から2.5ポイント上昇した。「一般社員志向」は11.2%で前回からほぼ横ばいだった。女性は「一般社員志向」が42.3%と最も高く、前回から9.5ポイント上昇し、過去最高となった。一方、「スペシャリスト志向」は29.1%で、前回から1.6ポイント低下し、過去最低となった。「管理職志

向」は12.2%で、前回から1.6ポイント低下した。

(4) 上司・先輩との人間関係

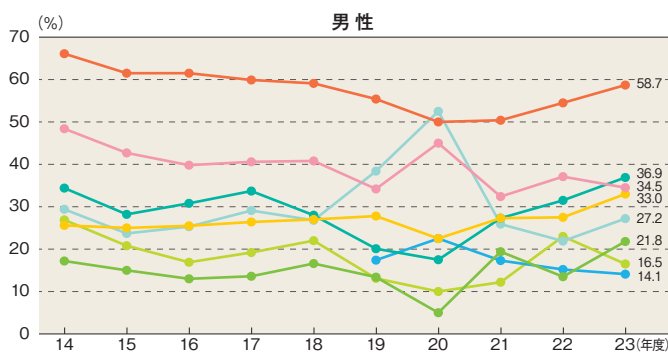
「ほどほど派」が上昇し 「積極派」が低下

「上司・先輩との人間関係はどのように考えていますか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、「義理を欠かない程度(以下:ほどほど派)」が63.5%で最も回答率が高く、前回から5.5ポイント上昇し、データをさかのぼれる1996年度以降、過去最高となった。「プライベートも含め積極的に(以下:積極派)」は25.1%で、前回から6.2ポイント低下し、過去最低となった(図表4)。「ほどほど派」と「積極派」の差は、前はやや縮小していたものの、今回再び開いた。

図表2 就職先の選択基準と推移 ※複数回答

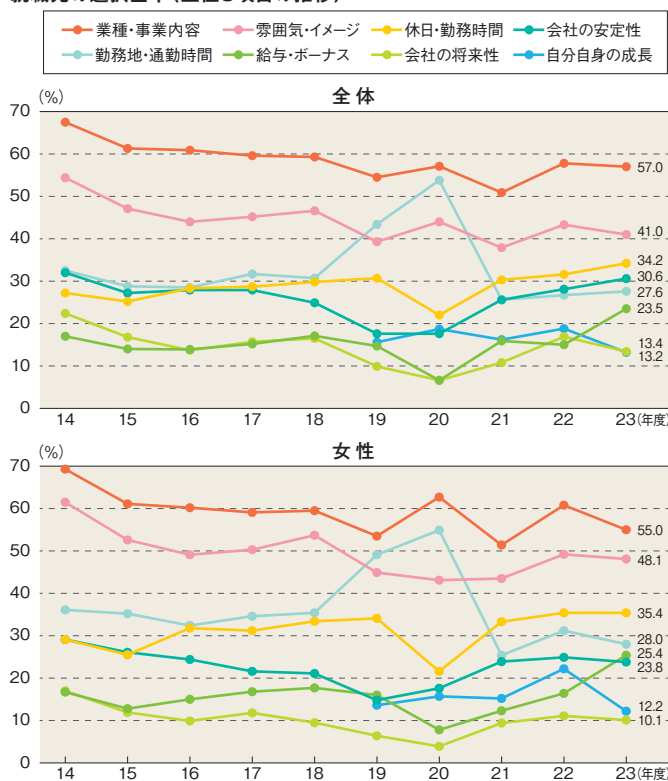
就職先の選択基準(全体、16項目)

順位	項目	回答割合	前回差
1	業種・事業内容	57.0%	▲0.8
2	雰囲気・イメージ	41.0%	▲2.3
3	休日・勤務時間	34.2%	+2.6
4	会社の安定性	30.6%	+2.5
5	勤務地・通勤時間	27.6%	+0.9
6	給与・ボーナス	23.5%	+8.5
7	会社の将来性	13.4%	▲3.5
8	自分自身の成長	13.2%	▲5.6
9	社員・人事担当者の対応	12.7%	▲0.1
10	福利厚生	10.4%	+3.0
11	親または学校の推薦	8.4%	+2.7
12	会社の規模	6.1%	+1.2
13	会社の知名度	3.0%	0.0
14	柔軟な働き方への対応	1.3%	▲0.3
15	SDGsなど社会貢献意識の強さ	0.5%	▲1.1
16	その他	0.8%	0.0



(※)2020年度は新型コロナウイルスの影響で例年に比し回答数が少ない。

就職先の選択基準(上位8項目の推移)



男女別に見ると、男女ともに「ほどほど派」と「積極派」の差が拡大した。男性は「ほどほど派」が60.2%で、前回から3.5ポイント上昇した。「積極派」は30.1%で、前回から4.2ポイント低下した。女性は「ほどほど派」が67.2%で、前回から7.9ポイント上昇し、過去最高となった。「積極派」は19.6%で、前回から9.0ポイント低下し、過去最低となった。

(5) 入社の際の不安

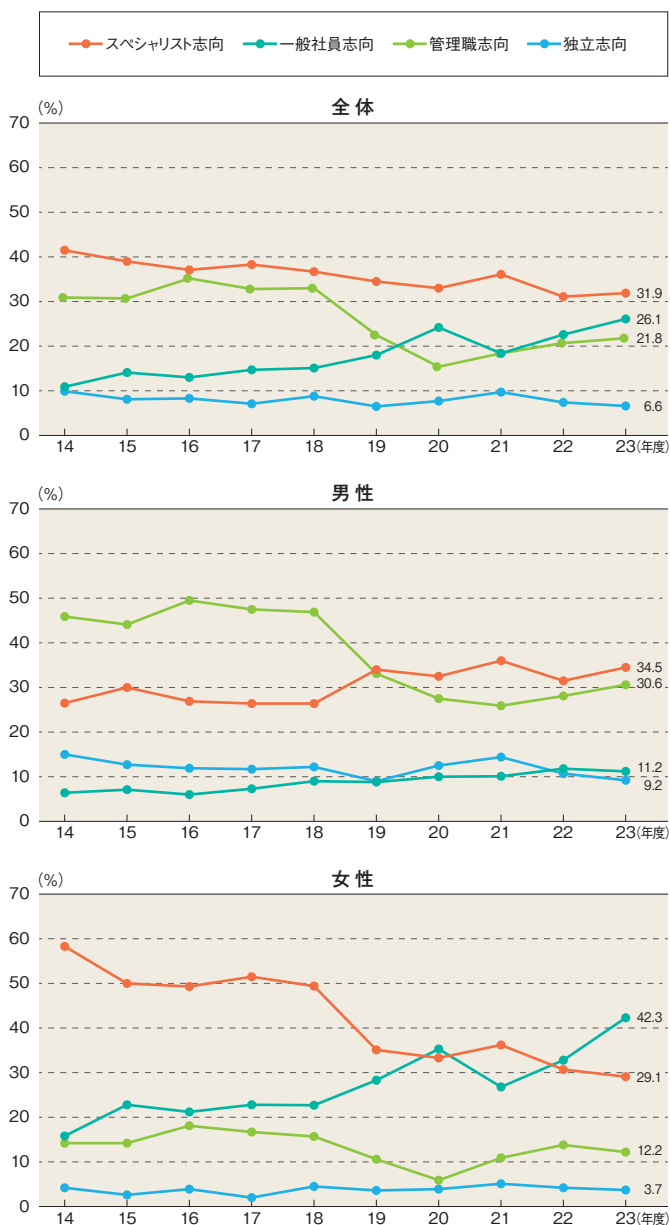
「上司・先輩との人間関係」がトップを維持

「入社にあたって不安に思うことは何ですか(3つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「上司・先輩との人間関係」(62.8%)、2位は「業界知識・業務内容」(51.4%)、3位は「社会常識・マナー」(50.1%)となった(図表5)。

上位3項目は前回と変わらない。2位の「業界知識・業務内容」は前回から2.6ポイント低下し、3位の「社会常識・マナー」との差が縮まった。

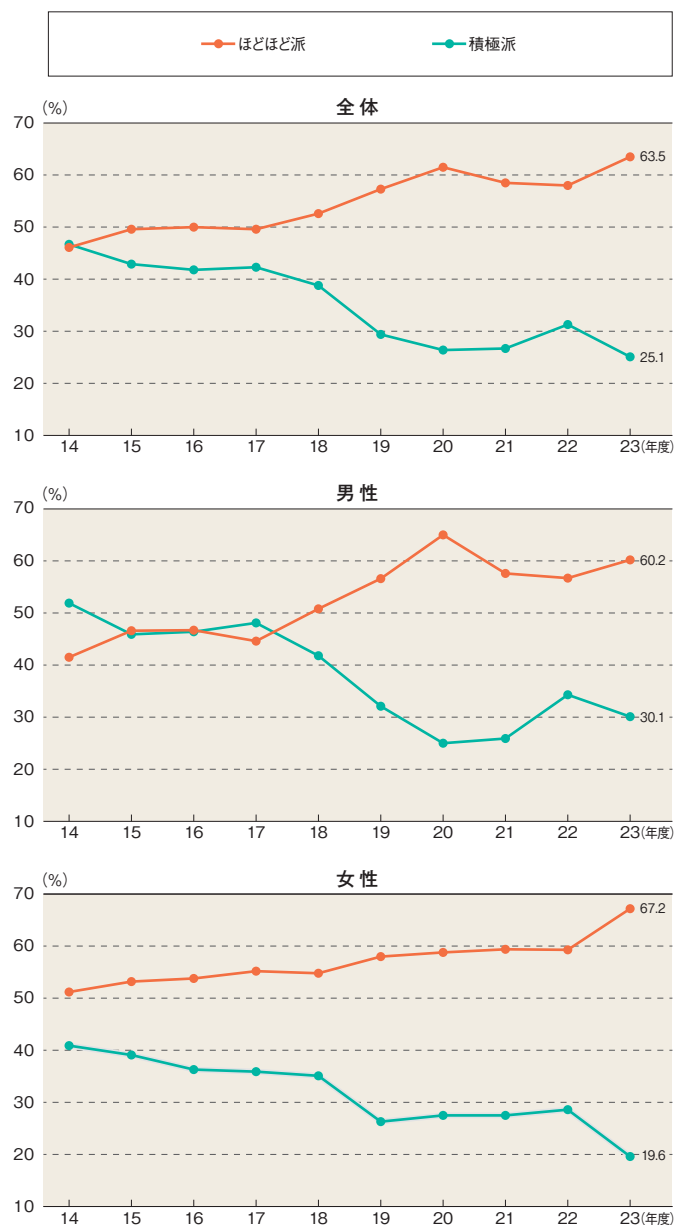
男女別に見ると、男女ともに「上司・先輩との人間関係」が最も高くなった。「社会常識・マナー」は男性では10.7ポイント上昇し2位となった一方、女性では9.0ポイント低下し3位となった。

図表3 将来就きたい地位(わからないを除いた項目の推移)



(※) 2020年度は新型コロナの影響で例年に比し回答数が少ない。

図表4 上司・先輩との人間関係(上位2項目の推移)



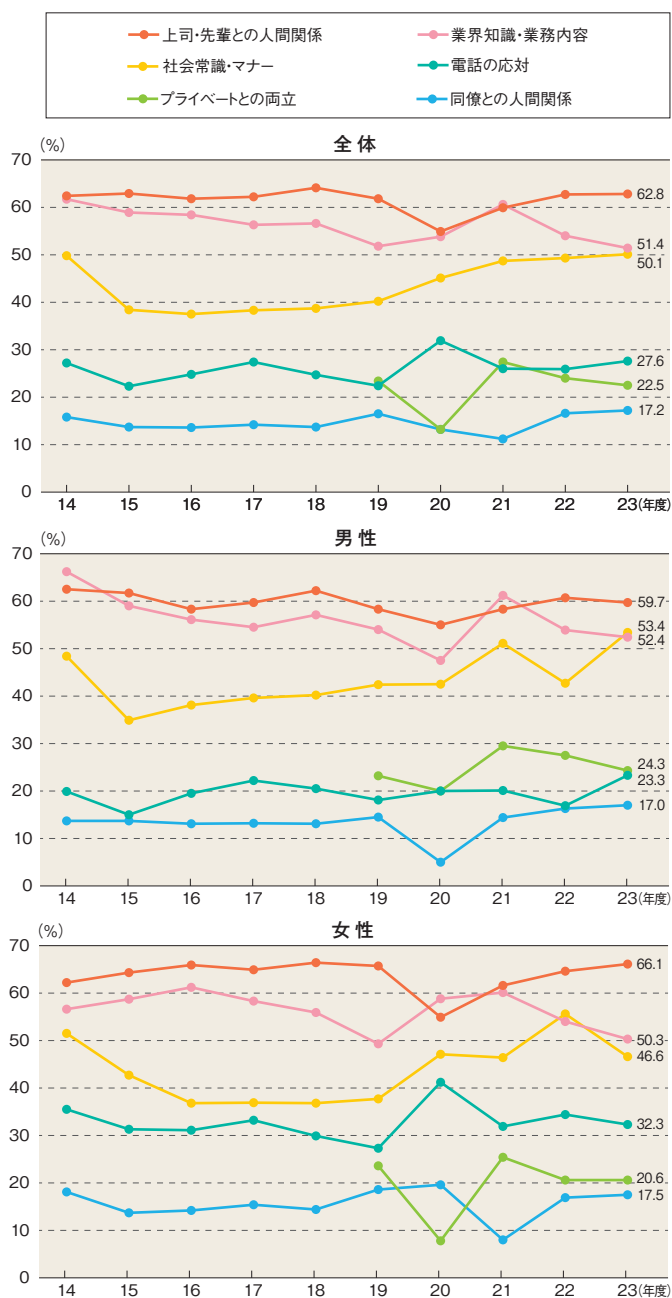
(※) 2020年度は新型コロナの影響で例年に比し回答数が少ない。

図表5 入社の際の不安 ※複数回答

入社の際の不安(全体、11項目)

順位	項目	回答割合	前回差
1	上司・先輩との人間関係	62.8%	0.1
2	業界知識・業務内容	51.4%	▲2.6
3	社会常識・マナー	50.1%	0.8
4	電話の応対	27.6%	1.7
5	プライベートとの両立	22.5%	▲1.5
6	同僚との人間関係	17.2%	0.6
7	機械の使い方	13.2%	▲3.1
8	パソコン・オフィス機器の使い方	12.7%	▲5.8
9	規則的な生活	11.6%	0.2
10	健康	10.9%	▲0.3
11	その他	0.8%	0.3

入社の際の不安(上位6項目の推移)



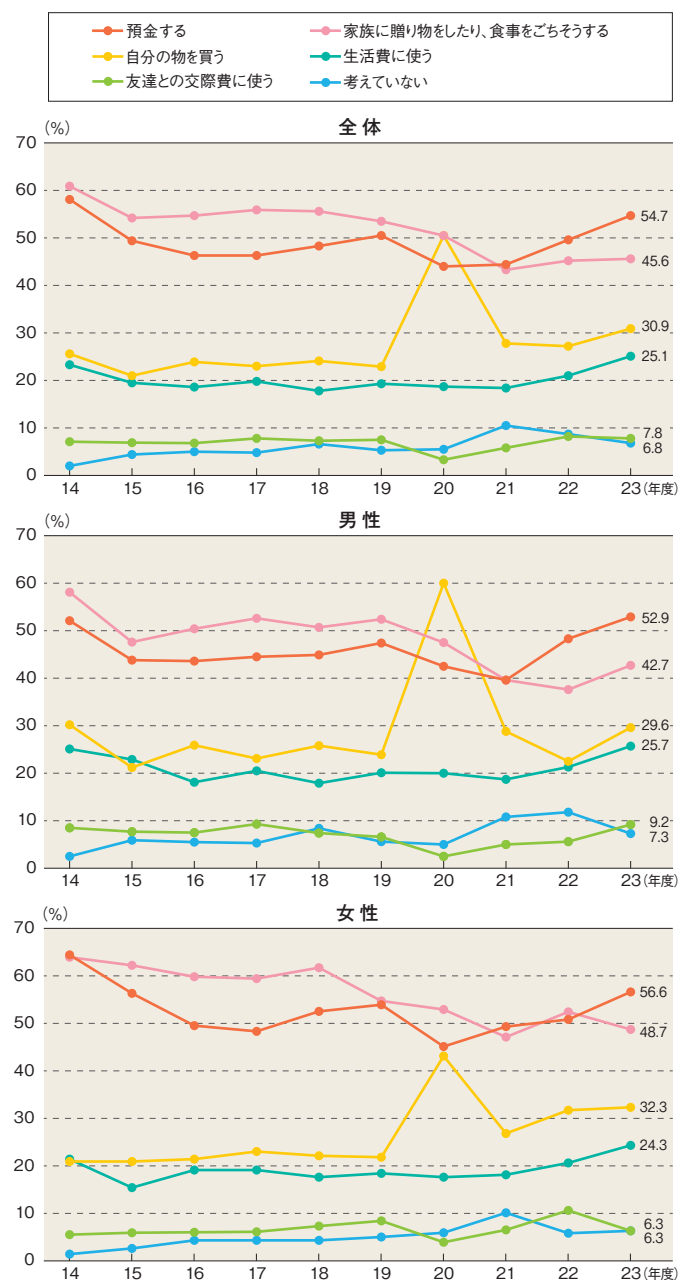
(※)2020年度は新型コロナウイルスの影響で例年に比し回答数が少ない。

(6)初給与の使い道

「預金する」が上昇

「初給与はどのように使いますか(2つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「預金する」(54.7%)、2位は「家族に贈り物をしたり、食事をごちそうする(以下:家族に感謝)」(45.6%)となった(図表6)。

図表6 初給与の使い道(上位6項目の推移) ※複数回答



(※)2020年度は新型コロナウイルスの影響で例年に比し回答数が少ない。

1位の「預金する」は前回から5.1ポイント上昇し、「家族に感謝」との差が開いた。

男女別に見ると、男女ともに「預金する」が上昇し1位となった。2位の「家族に感謝」は男性では上昇した一方、女性では低下し2位となった。

(7) 働く目的

「安定した生活を送りたい」がトップ 次いで「自分の成長のため」

「あなたが働く目的は何ですか(3つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「収入を得て安定した生活を送りたい」(59.5%)、2位は「自分の成長のため」(59.2%)、3位は「収入を得て仕事以外で好きなことをしたい」(41.3%)となった(図表7)。

男女別に見ると、男性のトップは「自分の成長のため」(64.6%)で、前回から11.2ポイント上昇した。女性のトップは「収入を得て安定した生活

を送りたい」(65.1%)で、前回から4.8ポイント上昇した。

(8) 利用したい働き方

およそ6割が「短時間勤務制度」・ 「在宅勤務」・「フレックスタイム」を 利用したいと回答

利用したい働き方について尋ねたところ、「テレワーク(在宅勤務)」、「フレックスタイム(時差出勤等)」、「短時間勤務制度」についておよそ6割が「利用したい」と回答した。

「利用したい」の回答率が最も高いのは「短時間勤務制度」で61.8%だった。理由としては、「長い時間働きたくないから」、「自分の時間を作りたいから」、「妊娠・出産しても働き続けたいため」などの声が聞かれた。

次いで「テレワーク」が58.5%だった。理由としては、「通勤時間が長いから」などの声があった。

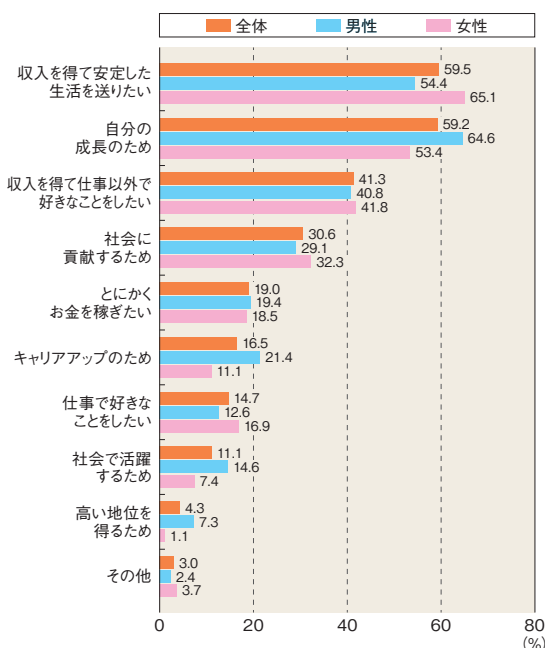
男女別に見ると、「テレワーク」、「フレックスタイム」、「短時間勤務制度」、「副業・兼業」において、女性の方が男性よりも「利用したい」の回答率がやや高くなった(図表8、9)。

(9) 理想の上司

「水ト麻美」が初の1位 「大谷翔平」が急上昇し 2位にランクイン

今年度の新入社員に、「あなたの理想の上司とはどんなタイプですか。著名人・有名人に例えて1人だけお答え下さい(自由回答)」と尋ねたところ、全体ランキングではアナウンサーの「水ト麻美」が、1997年度に理想の上司に関する調査を開始して以降、初めてトップに輝いた。ほぼ女性のみから票を得た。選んだ理由については「どんな時も優しく笑顔でいるから」、「仕事の悩みやミスに正面から向き合ってくれそう」、「厳しく

図表7 働く目的 ※複数回答

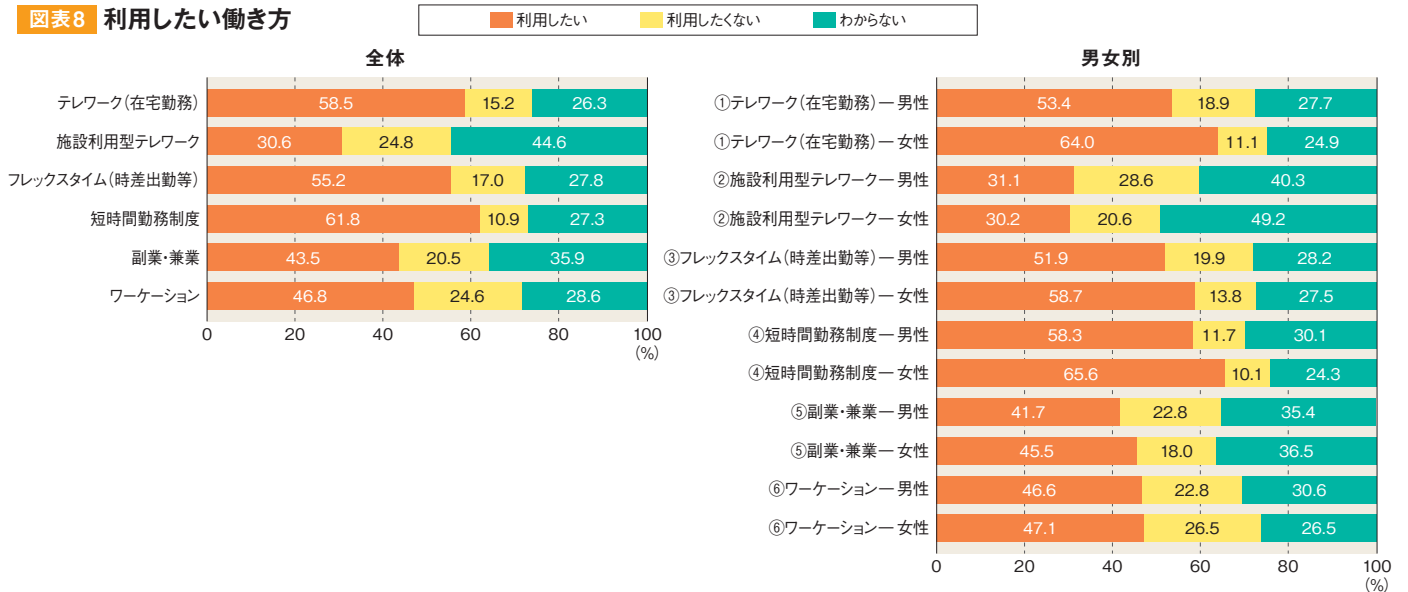


働く目的(前回比較) ※複数回答

(%, %ポイント)

働く目的	全体			男性			女性		
	2022年度	2023年度	前回差	2022年度	2023年度	前回差	2022年度	2023年度	前回差
収入を得て安定した生活を送りたい	56.7	59.5	+2.8	52.8	54.4	+1.6	60.3	65.1	+4.8
自分の成長のため	54.0	59.2	+5.2	53.4	64.6	+11.2	54.5	53.4	▲1.1
収入を得て仕事以外で好きなことをしたい	41.1	41.3	+0.2	40.4	40.8	+0.4	41.8	41.8	0.0
社会に貢献するため	27.5	30.6	+3.1	25.8	29.1	+3.3	29.1	32.3	+3.2
とにかくお金を稼ぎたい	18.3	19.0	+0.7	19.7	19.4	▲0.3	16.9	18.5	+1.6
キャリアアップのため	11.2	16.5	+5.3	9.6	21.4	+11.8	12.7	11.1	▲1.6
仕事で好きなことをしたい	15.0	14.7	▲0.3	12.9	12.6	▲0.3	16.9	16.9	0.0
社会で活躍するため	12.5	11.1	▲1.4	11.2	14.6	+3.4	13.8	7.4	▲6.4
高い地位を得るため	3.3	4.3	+1.0	4.5	7.3	+2.8	2.1	1.1	▲1.0
その他	1.9	3.0	+1.1	2.2	2.4	+0.2	1.6	3.7	+2.1

図表8 利用したい働き方



図表9 利用したい理由 (一部抜粋)

テレワーク(在宅勤務)	施設利用型テレワーク
<ul style="list-style-type: none"> ○通勤時間が長いから。 ○効率的に仕事ができそうだから。 ○今後テレワークが主流になる可能性があるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○動いて仕事場に行きたいので、施設利用型がいい。 ○気分転換のために利用したい。 ○環境を変えた方が捗るため。
フレックスタイム(時差出勤等)	短時間勤務制度
<ul style="list-style-type: none"> ○自由な時間に通勤できるから。 ○朝に間に合うかどうかという心配をできる限り無くしたいから。 ○家事育児と両立するために利用したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長い時間働きたくないから。 ○自分の時間を作りたいから。 ○妊娠・出産しても働き続けたいため。
副業・兼業	ワーケーション
<ul style="list-style-type: none"> ○他にもやってみたいことがあるから。 ○金銭的な心配があるから。 ○空いた時間にお金を稼ぎたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しそうだから。 ○最近になって生まれた新しい考え方だと思うので体験してみたい。 ○リフレッシュしながら働き、良い案などが思い付きそう。

図表10 理想の上司 (敬称略)

性別	順位	2018年度	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度
全体	1	明石家さんま	明石家さんま	明石家さんま	明石家さんま	水ト麻美
	2	松岡修造	イチロー	水ト麻美	天海祐希	大谷翔平
	3	天海祐希	松岡修造	内村光良 天海祐希	内村光良	明石家さんま
	4	内村光良	内村光良		櫻井翔	内村光良
	5	イチロー	水ト麻美	イチロー	水ト麻美	天海祐希 志村けん
男性 新入社員	1	明石家さんま	イチロー	明石家さんま	松本人志	志村けん
	2	松岡修造	明石家さんま	イチロー	明石家さんま	明石家さんま
	3	イチロー	松岡修造	阿部寛	イチロー	内村光良
	4	松本人志	内村光良	松岡修造	内村光良	大谷翔平
	5	北野武	所ジョージ	松本人志	志村けん	栗山英樹
女性 新入社員	1	天海祐希	水ト麻美	水ト麻美	天海祐希	水ト麻美
	2	明石家さんま	明石家さんま	天海祐希	水ト麻美	天海祐希
	3	水ト麻美	松岡修造	内村光良	明石家さんま	櫻井翔
	4	内村光良	天海祐希	明石家さんま	内村光良	大谷翔平
	5	松岡修造	内村光良	櫻井翔	櫻井翔	明石家さんま

(※) 網掛けは2023年度全体で回答率が高かった上位3位までの人。2020年度については新型コロナウイルスの影響で回答数が少なかったため集計していない。

指導をしてくれる反面、部下に優しく面倒見が良さそう」などの意見が寄せられた。

2位はワールド・ベースボール・クラシック(WBC)での活躍が記憶に新しい「大谷翔平」で、今回初めてトップ5入りした。「結果を出し、周りを実力でも雰囲気でも引っ張っている」、「人当たりが良く、気配りができる人のため」、「真面目で性格が良く、後輩に優しく」などの意見が寄せられ、男女問わず支持を集めた。

男女別ランキングでは、男性が選んだトップ3は1位が「志村けん」、2位は「明石家さんま」、3位は同率で「内村光良」・「大谷翔平」となった。

「志村けん」は男性ランキングにおいて初めて1位となった。また、WBCで日本代表の監督を務めた「栗山英樹」が5位となった。女性が選んだトップ3は1位が「水ト麻美」、2位が「天海祐希」、3位が「櫻井翔」となった(図表10)。

4 新入社員の結婚観 2023

(1) 結婚願望

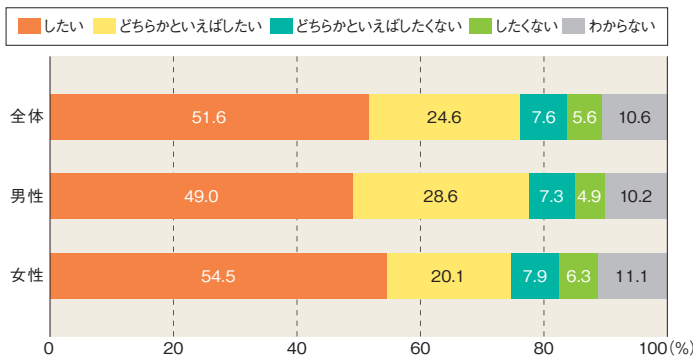
「結婚したい」が76.2%

「あなたは結婚したいと思いますか」と尋ねたところ、「したい」が

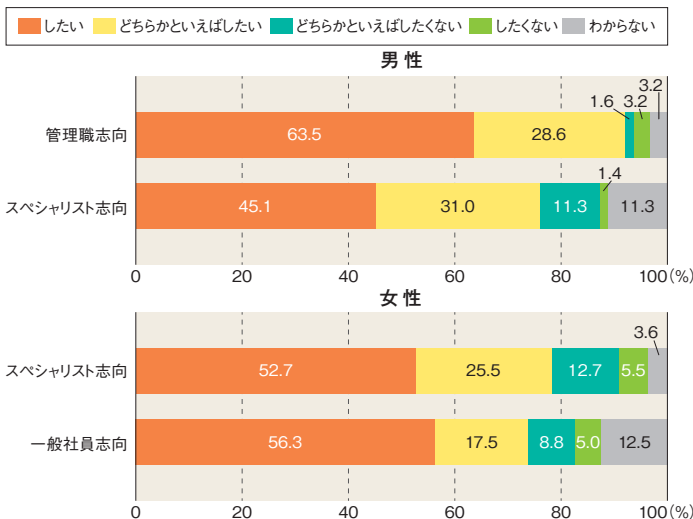
51.6%、「どちらかといえばしたい」が24.6%、「どちらかといえばしたくない」が7.6%、「したくない」が5.6%だった。「したい」と「どちらかといえばしたい」を合わせた「結婚したい」は76.2%となった。「どちらかといえばしたくない」と「したくない」を合わせた「結婚したくない」は13.2%だった。男女別に見ると、「結婚したい」は男性が77.6%、「結婚したくない」が12.2%だった。女性は「結婚したい」が74.6%、「結婚したくない」が14.2%だった(図表11)。

男女別・将来就きたい地位別に見ると、男性は、管理職志向の「したい」が63.5%とスペシャリスト志向に

図表11 結婚願望



図表12 結婚願望(男女別・将来就きたい地位別)



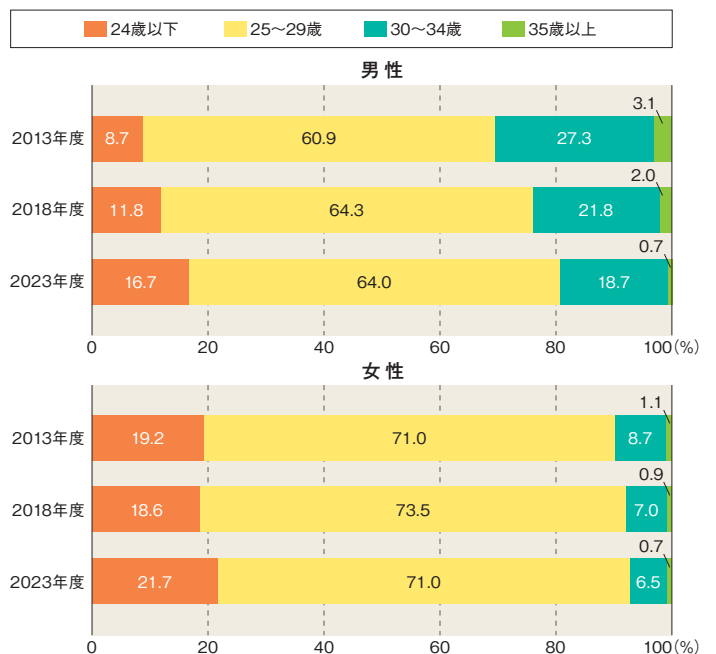
図表13 理想の結婚年齢(平均値)

(単位:歳)

年度	全体	男女別	
		男性	女性
2013年度	26.8	27.5	26.1
2018年度	26.7	27.1	26.2
2023年度	26.5 (▲0.2)	26.8 (▲0.3)	26.1 (▲0.1)

(※1)カッコ内の数値は、2023年度と2018年度の平均値の差。
端数処理の関係で数値の差がカッコ内の数値と一致しない場合がある。
(※2)2023年度は「理想は特にない」を除いた平均値。

図表14 理想の結婚年齢(年齢階層別)



(※)2023年度は「理想は特にない」を除く。

比べて高く、「結婚したい」は92.1%に上っている(図表12)。

(2)理想の結婚年齢

男性:26.8歳
女性:26.1歳

(1)で「結婚したい」と回答した人に対し、「あなたの理想の結婚年齢は何歳ですか」と尋ねたところ、平均年齢は全体で26.5歳、男性は26.8歳、女性は26.1歳となった。5年前の前回調査(2018年度)とは選択肢等が異なるため単純な比較はできないものの、男女ともに大きな変化は見られなかった(図表13)。また、「理

想は特になし」は全体で4.3%、男性は6.3%、女性は2.1%だった。

理想の結婚年齢を4階層別に分類すると、男女ともに「25～29歳」が最も高い。男性では30歳代未満(「24歳以下」+「25～29歳」との回答が増加傾向にある(図表14)。

(3)結婚について期待すること

男性:好きな人との生活
女性:あたたかい家庭

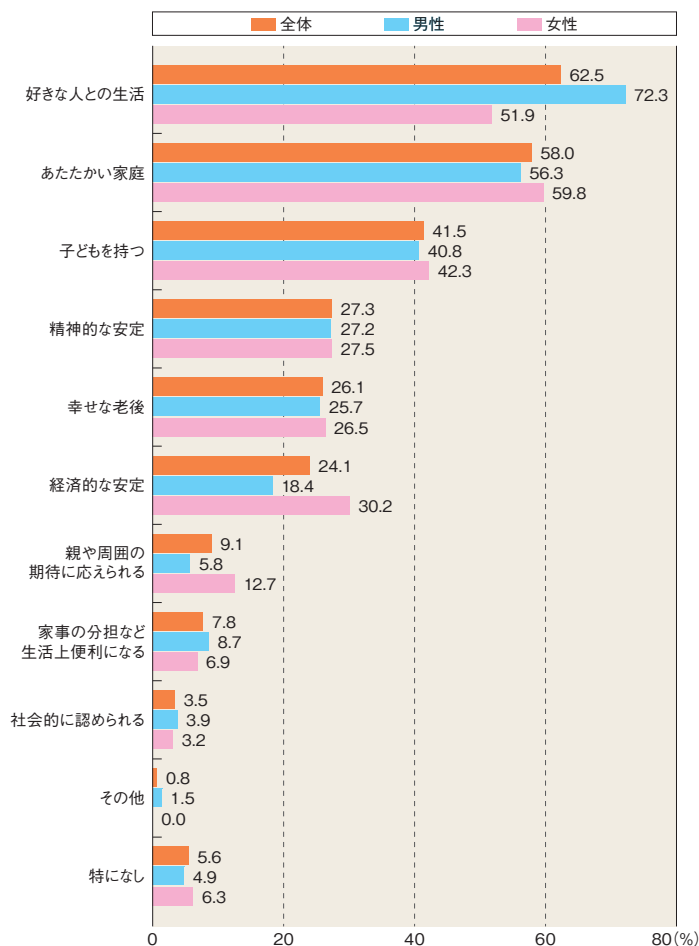
「あなたが結婚について期待することは何ですか(3つまで回答)」と尋ねたところ、「好きな人との生活」が62.5%でトップ、次いで「あたたかい

家庭」が58.0%、「子どもを持つ」が41.5%となった(図表15)。

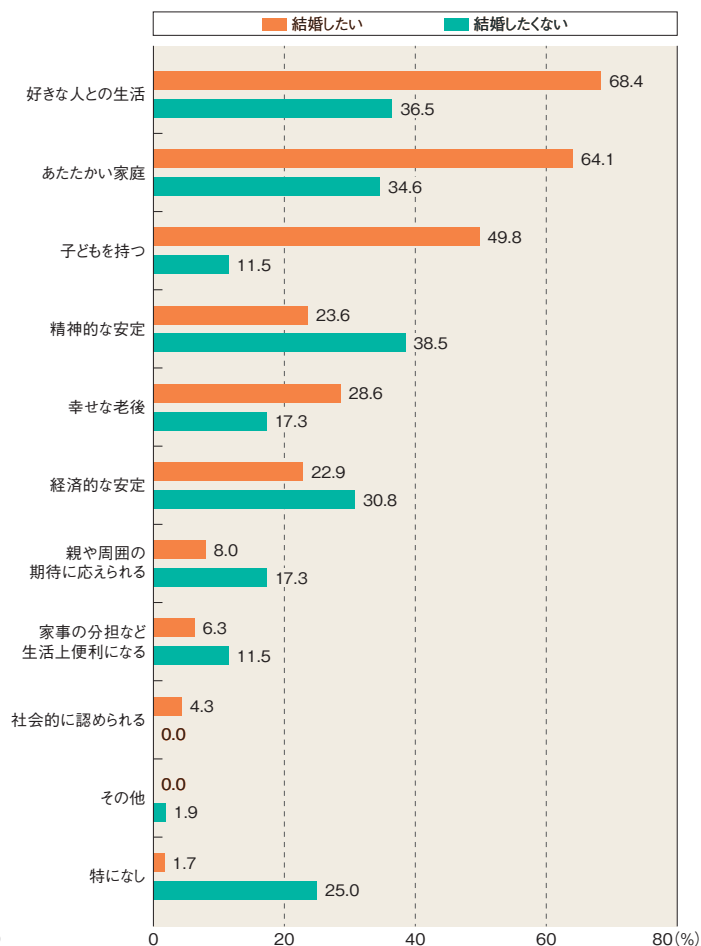
男女別に見ると、男性は「好きな人との生活」(72.3%)、女性は「あたたかい家庭」(59.8%)が最も高くなった。また、「好きな人との生活」は、男性が女性より20.4ポイント高く、「経済的な安定」は女性が男性より11.8ポイント高くなっている。

結婚願望別に見ると、「結婚したい」と回答した人は「好きな人との生活」(68.4%)、「結婚したくない」と回答した人は「精神的な安定」(38.5%)が最も高くなった。また、「子どもを持つ」は「結婚したい」が「結婚したくない」より38.3ポイント高くなっている(図表16)。

図表15 結婚について期待すること ※複数回答



図表16 結婚について期待すること(結婚願望別) ※複数回答



(4)結婚について不安に思うこと

男性: 金銭面の準備
女性: 仕事との両立

「あなたが結婚について不安に思うことは何ですか(3つまで回答)」と尋ねたところ、「金銭面の準備(結婚資金など)」が48.4%でトップ、次いで「仕事との両立」が45.6%、「出産や子育て」が30.4%となった(図表17)。

男女別に見ると、男性は「金銭面の準備」(56.3%)、女性は「仕事との両立」(46.6%)が最も高くなった。また、「金銭面の準備」は男性が女性より16.6ポイント高くなっている。

結婚願望別に見ると、“結婚した

い”と回答した人は「金銭面の準備」(51.8%)が最も高くなった。“結婚したくない”と回答した人は「自由や気楽さが減る」(59.6%)が最も高く、“結婚したい”より37.3ポイント高くなっている(図表18)。

(5)独身であることに危機感を抱く年齢

男性: 32.3歳
女性: 31.0歳

(1)で“結婚したい”と回答した人に対し、「あなたは何歳まで独身でいたら危機感を抱きますか」と尋ねたところ、全体の平均は31.7歳、男性は

32.3歳、女性は31.0歳となった。男女ともに前回から大きな変化は見られなかった(図表19)。また、「危機感は抱かない」との回答は全体で8.3%、男性は9.4%、女性は7.1%だった。

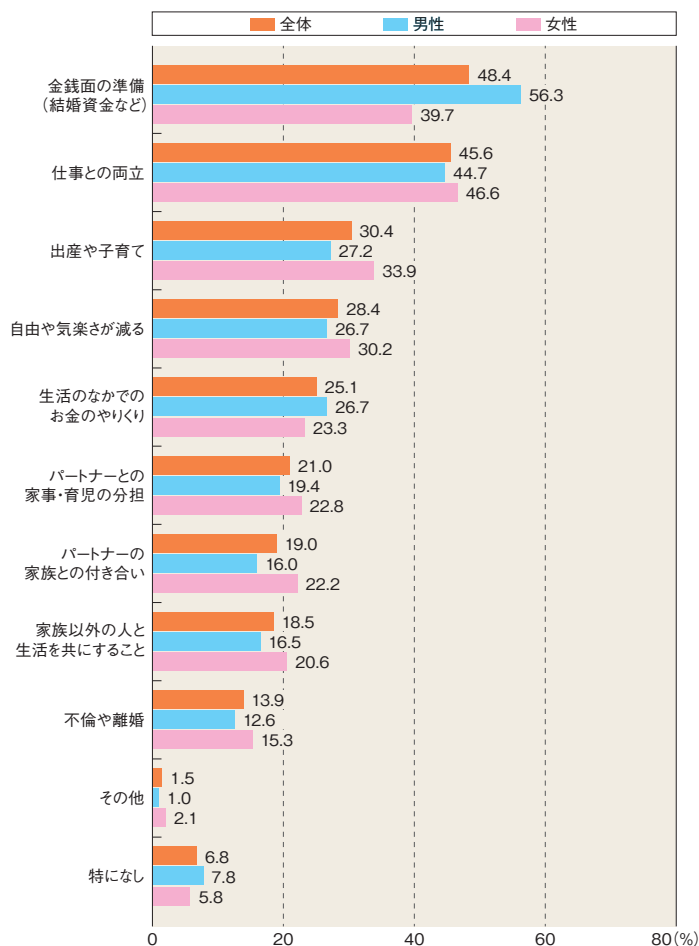
独身であることに危機感を抱く年齢を4階層別に分類すると、男女ともに「30～34歳」が最も高く、4割を占める結果となった(図表20)。

(6)独身であることに危機感を抱く要因

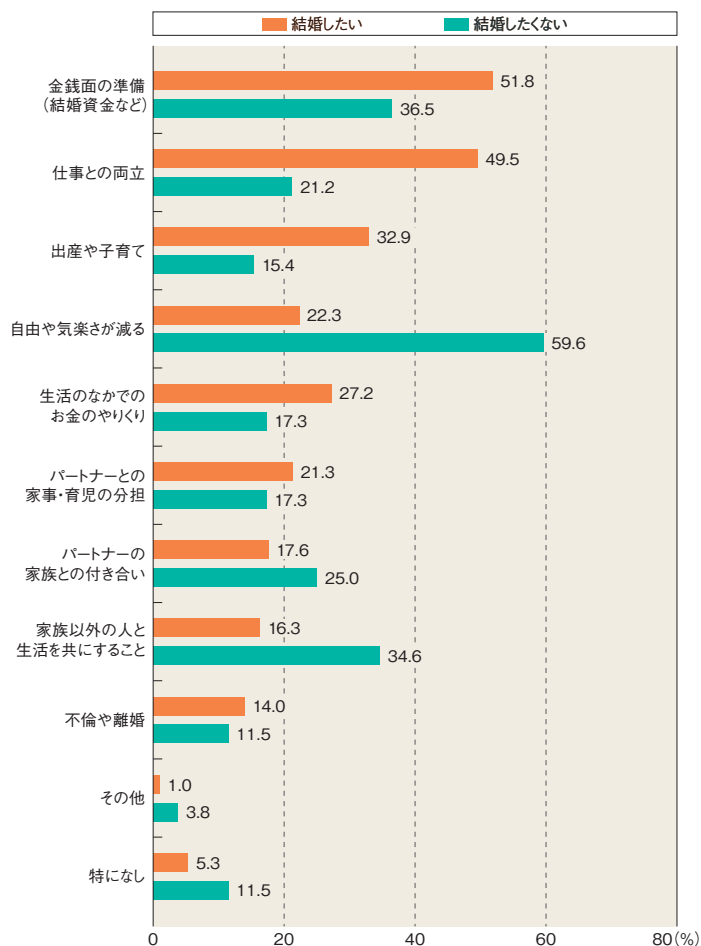
男性: 相手を選択できなくなる
女性: 周りから遅れてしまう

「危機感を抱く要因は何ですか

図表17 結婚について不安に思うこと ※複数回答



図表18 結婚について不安に思うこと(結婚願望別) ※複数回答



(1つだけ選択)」と尋ねたところ、男性のトップは「相手を選択できなくなる」(31.0%)で、前回から11.8ポイント上昇した。女性のトップは「周りから遅れてしまう」(32.8%)で、前回から7.8ポイント上昇した。

男女ともに前回1位だった「理想の年齢で子どもを得るため」は、男性は9.7%(前回差▲18.4ポイント)で4位、女性は25.2%(同▲18.2%ポイント)で2位と、男女ともに大きく減少し、順位を落とした。

男性の2位は「周りから遅れてしまう」で28.3%(同+6.0ポイント)だった。「周りから遅れてしまう」は男女ともに上昇傾向にある(図表21)。

(7)理想の子どもの数

「2人」が7割

「あなたは、何人くらい子どもが欲しいと思いますか」と尋ねたところ、「子どもが欲しい」(「1人」「2人」「3人」「4人以上」のうちどれか一つを回答)は85.8%、「子どもは欲しくない」は14.2%だった。男女別に見ると、「子どもが欲しい」と回答したのは、男性が85.9%、女性が85.7%だった(図表22)。

(1)で「結婚したい」と回答した人に限定すると、「子どもが欲しい」は全体が94.4%、男性が92.5%、女性が96.5%となった。

また、「子どもが欲しい」と回答した人のうち、理想の子どもの数は「2人」が最も高く72.0%だった。次に「1人」で17.1%、「3人」で10.6%だった。回答形式等が異なるため単純な比較はできないものの、「1人」は上昇傾向、「3人」は低下傾向にある(図表23)。

男女別に見ると、男女ともに「2人」が最も高く、それぞれ回答率は男性が69.5%、女性が74.7%となった(図表24)。

(8)希望するライフコース

結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける

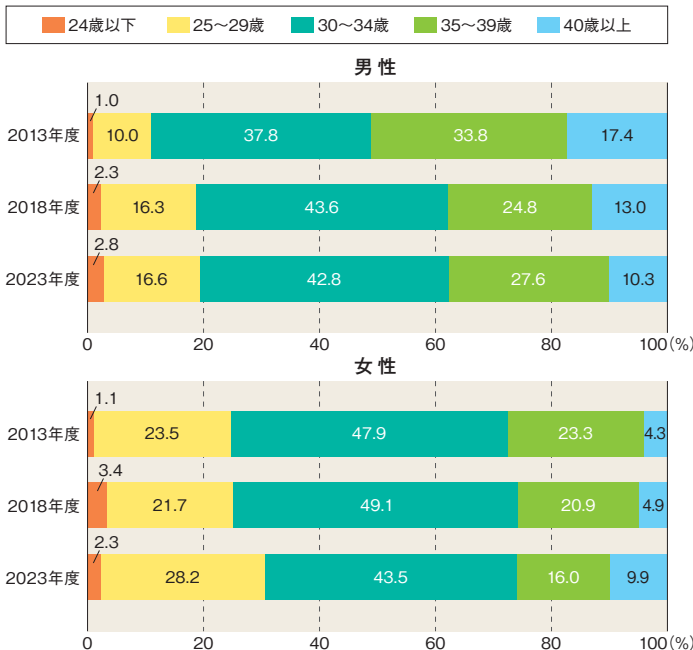
「あなたが希望するライフコース

図表19 独身であることに危機感を抱く年齢(平均値) (単位:歳)

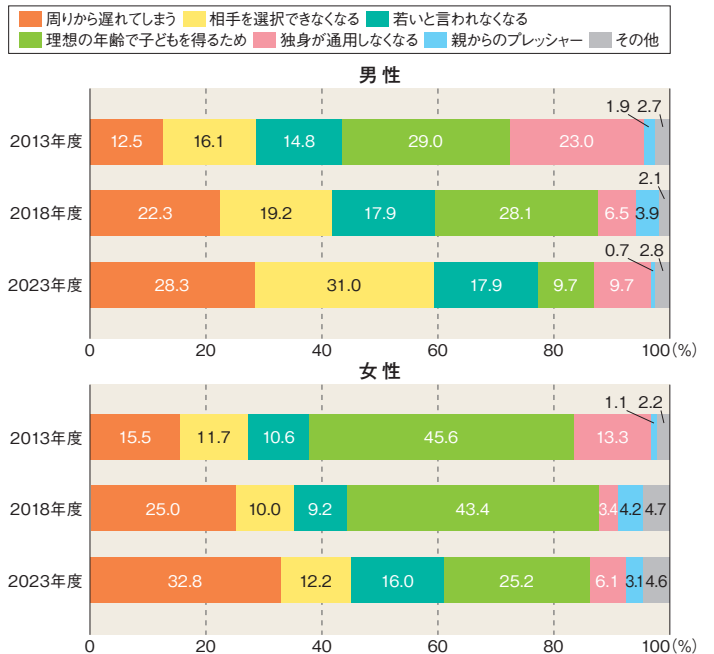
	全体	男女別	
		男性	女性
2013年度	32.5	33.7	31.2
2018年度	31.6	32.2	31.0
2023年度	31.7 (+0.1)	32.3 (+0.1)	31.0 (0.0)

(*)カッコ内の数値は、2023年度と2018年度の平均値の差。
端数処理の関係で数値の差がカッコ内の数値と一致しない場合がある。

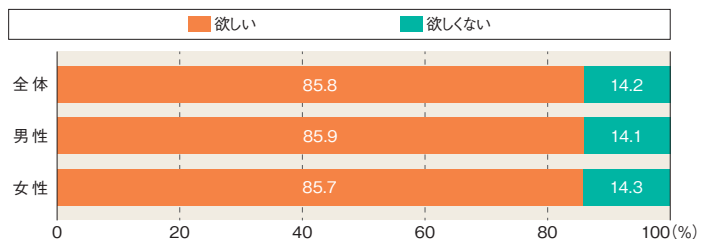
図表20 独身であることに危機感を抱く年齢(年齢階層別)



図表21 独身であることに危機感を抱く要因



図表22 子どもが欲しいか



はどれですか」と尋ねたところ、男性は「結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける」が63.6%と突出している。女性も同様に「結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける」が41.8%と最も高く、次いで「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が23.3%となった。「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」は4.8%にとどまった(図表25)。

また、男女別・将来就きたい地位

別に見ると、男性では管理職志向・スペシャリスト志向ともに「結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける」が最も高くなった。また、スペシャリスト志向は「結婚せず、仕事を続ける」(9.9%)、「結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける」(12.7%)が管理職志向に比べ高くなっている。女性ではスペシャリスト志向・一般社員志向ともに「結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける」が最も高い一方、一般社員志向は「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機

会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が30.0%とスペシャリスト志向より13.6ポイント高くなっている(図表26)。

(9) パートナーに望むライフコース

男性:特に希望はない

女性:子どもを持ち、仕事を続ける

「もしもあなたが結婚した場合、あなたがパートナーに望むライフコースはどれですか」と尋ねたところ、男性は「特に希望はない」が42.2%と最も高く、次いで「子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が27.2%となった。女性は「子どもを持ち、仕事を続ける」が63.5%と突出している(図表27)。

男女別・将来就きたい地位別に見ると、管理職志向の男性は「子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」が33.3%と最も高く、次いで「子どもを持ち、仕事を続ける」が31.7%と、ともにスペシャリスト志向に比べ高くなっている。女性ではスペシャリスト志向・一般社員志向ともに「子どもを持ち、仕事を続ける」が6割以上を占めている(図表28)。

(10) 理想の家事分担割合

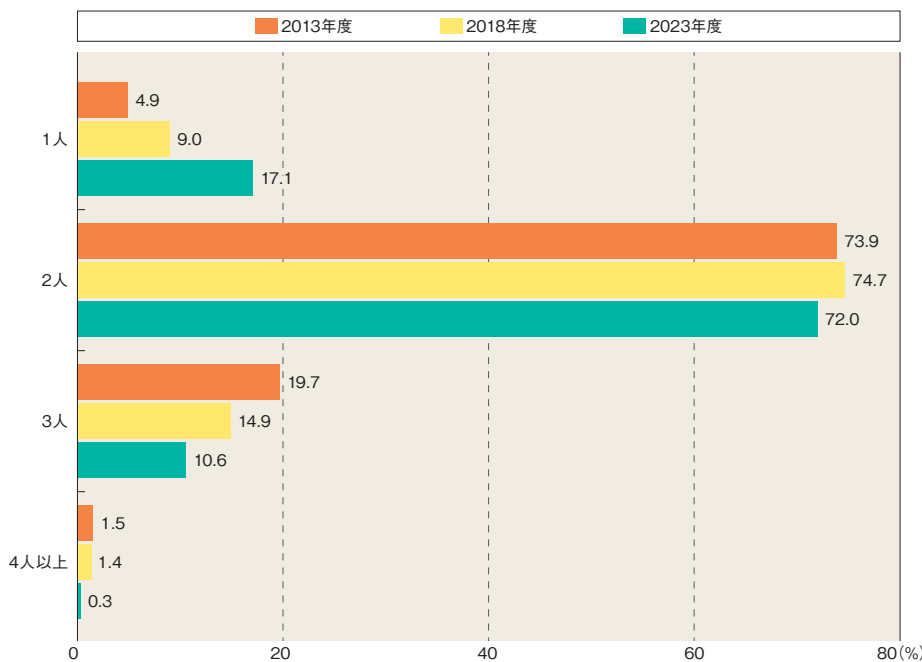
自分5:パートナー5

理想の家事負担割合(自分)は

男性 4.8、女性 5.7

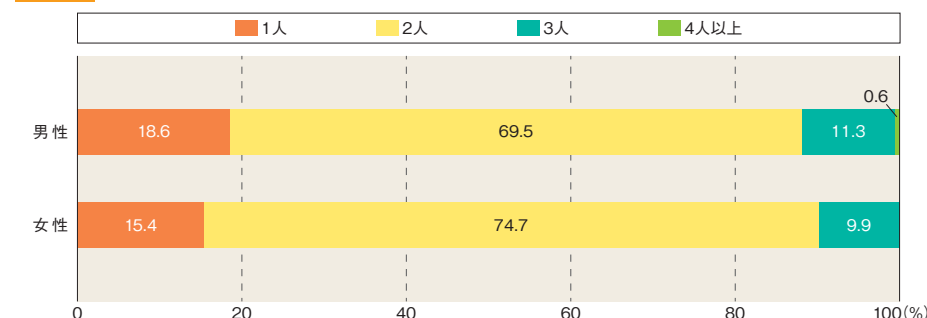
「もしもあなたが結婚した場合、理想の家事分担割合はどれですか」と尋ねたところ、男性は「自分5:パート

図表23 理想の子どもの数



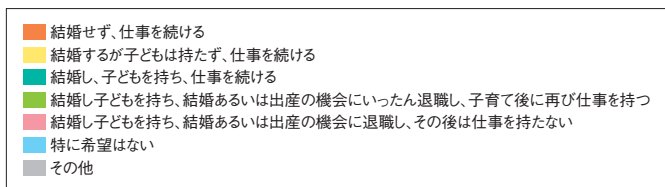
(※1)2023年度は「結婚したくない」と「わからない」も含む。
(※2)「子どもは欲しくない」を除く。

図表24 理想の子どもの数(男女別)

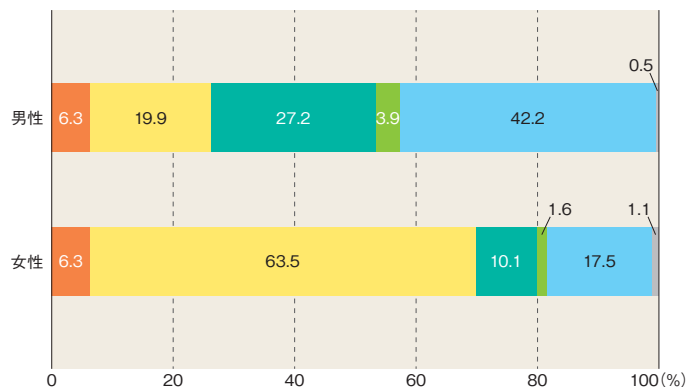
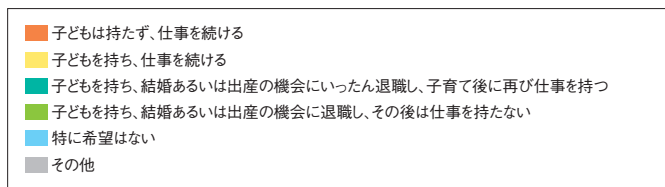


(※)「子どもは欲しくない」を除く。

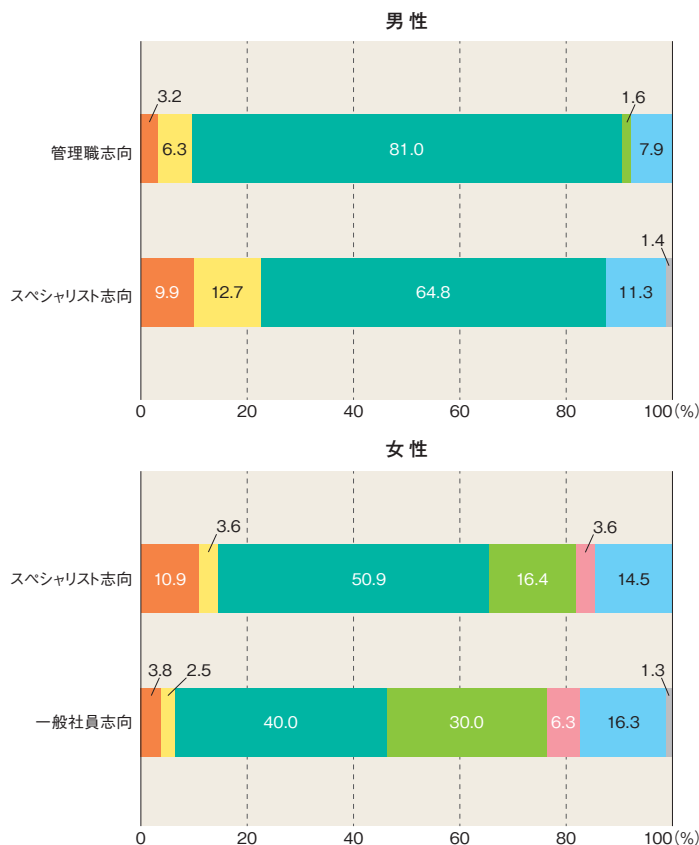
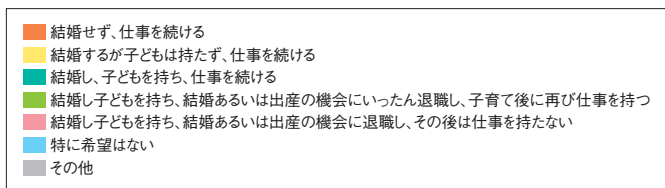
図表25 希望するライフコース



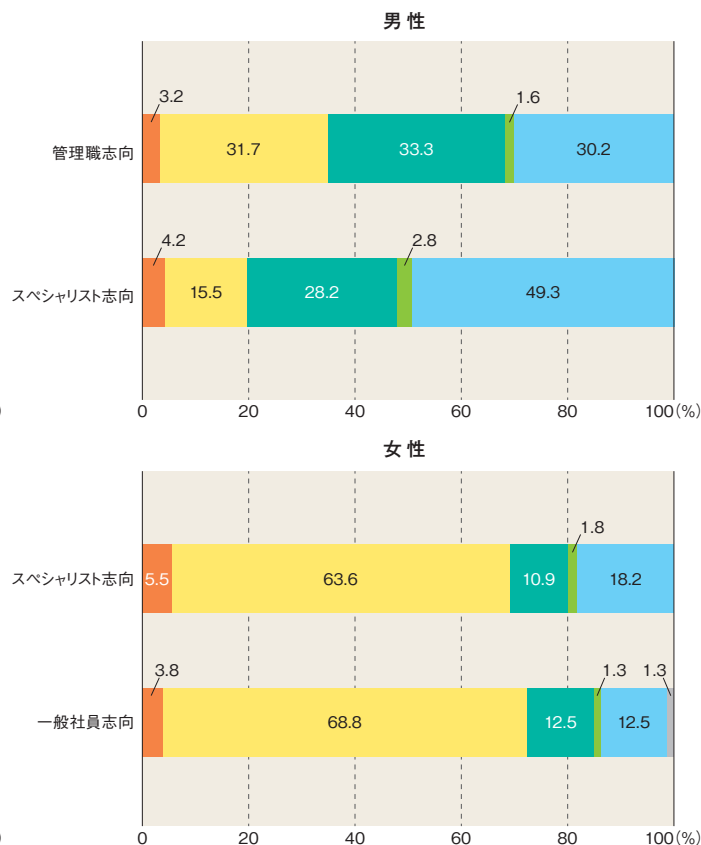
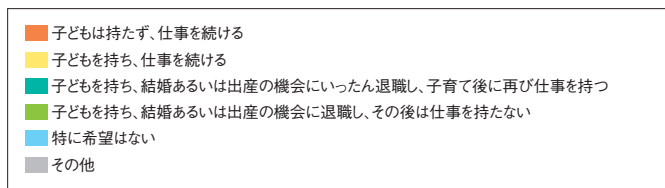
図表27 パートナーに望むライフコース



図表26 希望するライフコース(男女別・将来就きたい地位別)



図表28 パートナーに望むライフコース(男女別・将来就きたい地位別)



ナー5」が57.3%で突出している。女性も「自分5：パートナー5」が45.0%で最も高く、次いで「自分6：パートナー4」が29.1%となった。男女ともに家事分担意識が比較的高い傾向がうかがえた(図表29)。

理想の家事負担割合(自分)の平均値は、男性が4.8、女性が5.7となった。将来就きたい地位別、希望するライフコース別、パートナーに望むライフコース別に見ると、男性ではおおむね5、女性ではおおむね6と、地位別やライフコース別で大きな差は見られなかった(図表30)。

(11)結婚に関する意見

「結婚についてあなたのお考えやご意見があれば自由にご記入ください

い(自由記述)」と尋ねたところ、図表31のような回答が寄せられた。

結婚相手については、「価値観の合う人がいい」といった声が多かった。家事や育児については、特に女性からの意見が多く「協力してくれる人がいい」、「分担は当然」などの声があった。金銭面については、「経済的に余裕があれば結婚したい」、「子どもが欲しいがお金がかかりそう」という声が聞かれた。結婚に対するネガティブな意見としては、「結婚にあまり興味が湧かない」、「結婚できるか不安」といった声があった。結婚の制度そのものについては、「あくまで書面上のもの」、「結婚しないのも1つの選択肢」、「性別に関係なく結婚できたらいい」などの声も聞かれた。

(12)理想の結婚相手

男性：有村架純
女性：中村倫也

「あなたの理想の結婚相手は著名人・有名人にたとえて誰ですか(自由回答)」と尋ねたところ、男性が選んだ理想の結婚相手の1位は「有村架純」(支持率7.7%)、2位は「新垣結衣」(同7.0%)となった。ドラマや映画等で活躍する20~30代の女性俳優が上位を占めた。

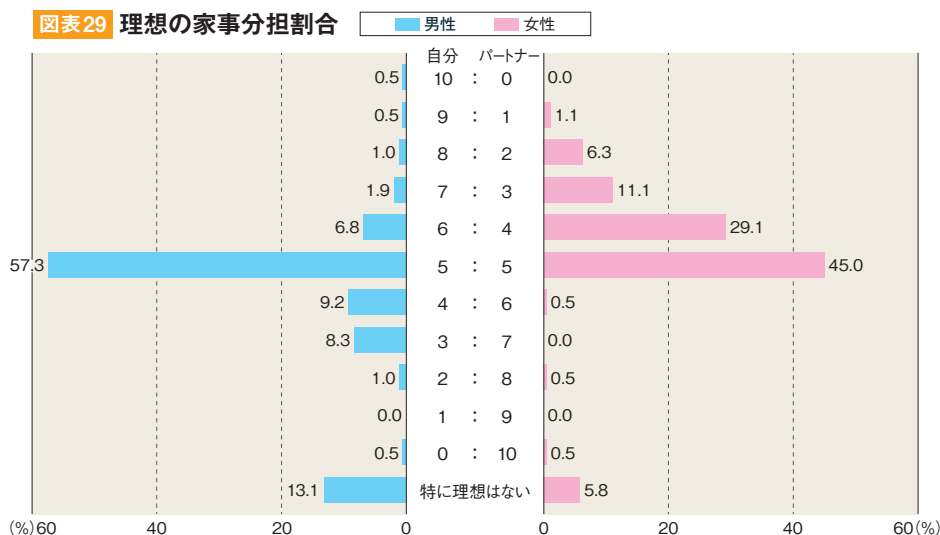
女性が選んだ1位は、今年3月に結婚を電撃発表した「中村倫也」(同6.1%)となった。2位はWBCで大活躍した「大谷翔平」(同5.4%)だった。5年前は「イクメン」のイメージが強い著名人・有名人が上位を占めたが、今回は顔ぶれがほぼ一新された(図表32)。

5 総括

今回の調査において、将来就きたい地位では、「一般社員志向」が過去最高となった。特に女性は前回から9.5ポイント上昇し、42.3%を占める結果となった。

上司・先輩との人間関係では、男女ともに「ほどほど派」が上昇し、「積

図表29 理想の家事分担割合



図表30 理想の家事負担割合の平均値

	男性							女性					
	将来就きたい地位	希望するライフコース		パートナーに望むライフコース			将来就きたい地位	希望するライフコース		パートナーに望むライフコース			
		管理職志向	スペシャリスト志向	A	A	B		希望なし	スペシャリスト志向	一般社員志向	A	B	A
自分	4.8	4.8	4.9	4.8	4.9	4.7	4.9	5.7	5.7	5.8	5.8	6.0	5.9
パートナー	5.2	5.2	5.1	5.2	5.1	5.3	5.1	4.3	4.3	4.2	4.2	4.0	4.1

希望するライフコース：A.結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける B.結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
パートナーに望むライフコース：A.子どもを持ち、仕事を続ける B.子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ

極派」が低下した。

理想の上司では、日本テレビの水卜麻美アナウンサーが全体ランキングで初めて1位に輝いた。2位はWBCで大活躍した大谷翔平選手で、初めてトップ5入りした。

5年ぶりに実施した「新入社員の結婚観」に関する調査では、結婚したいと考えている新入社員は76.2%に上った。理想の結婚年齢は26歳前後、独身であることに危機感を抱く年齢は30歳前後、理想の子どもの

数は2人と、5年前と比べ大きな変化は見られなかった。一方で、独身であることに危機感を抱く要因については、5年前は男女ともに1位であった「理想の年齢で子どもを得るため」が、男女ともに10ポイント以上減少し、男性は「相手を選択できなくなる」、女性は「周りから遅れてしまう」がそれぞれ1位となった。

今回新たに追加した「結婚について不安に思うこと」は、「金銭面の準備（結婚資金など）」や「仕事との両立」が上位となった。理想のライフコースは、男女ともに「結婚し、子どもを持ち、仕事を続ける」が最も高くなった。理想の家事分担割合は男女ともに「自分5：パートナー5」が最も高くなった。

今回の調査からは、結婚や子どもを持つことについて、当地域の新入社員は変わらず積極的な意欲を有していることが分かった。一方、我が国では未婚化・晩婚化・出生率低下が進行している。結婚や子どもを望む若者が理想を叶えられるよう、結婚や子育てに係る経済的支援や、仕事やキャリアと両立できる環境の整備などといった施策がいつそう求められる。

(2023.6.7)

OKB総研 調査部 梅木 風香

図表 31 結婚に関する意見(一部抜粋)

意見	性別
結婚にもいろいろな形がある。	男性
結婚はあくまで書面上の約束のようなもので、結婚＝幸せではないと思います。してもなくても、仕事もプライベートも充実していけるなら書面上のことにこだわる必要はないです。	女性
お互いが望むのであれば、結婚や同棲をせずにパートナーであり続けるのも一つの選択肢と考えている。	男性
必ず結婚が幸せとは限らないけれど、人生においてとても良い経験になると思います。	男性
性別に関係なく、結婚できたらいいのと思っています。	女性
同性でもいい人がいればその人とパートナーとして人生を送りたい。	女性
何歳でも結婚は、できると今は思っています。	男性
早く結婚して早く子どもを産んで、子どもの友達から「お前のお母さん若いなあ」って言われたい。	女性
友達の延長線みたいな人と結婚したい。	男性
趣味が合ったりなど、なにか共通点がある人を選べたらいいと思います。	女性
食べることが好きなので、食事を残す人とはパートナーになりたくない。体調が悪いなどの特別な事由がない場合は出された食事を楽しく食べて欲しい。	男性
価値観が合う人と結婚したい。	女性
お互いの性格や考え方が合えばいいと思う。	女性
キャリアを大事にしながらプライベートも充実させたい。	女性
家事や育児など協力してくれる人がいいと思います。	女性
家事育児は分担が当然。「イクメン」や「男性が手伝う」という考え方は古いと思う。	女性
保有資格を活かして仕事をしたいので、相手が特に仕事にこだわりがないのなら家事育児の負担を多めにおってほしい。	女性
自分で食事が作れないなど、家事ができない人にはなりたくない。身の回りのことができないと正直ダサさを感じる。	男性
料理をしてくれる人がいい。	女性
主夫になりたい。	男性
結婚したらお金に余裕のある生活を送りたい。	男性
経済的に余裕があれば結婚したい。	女性
資金面が安定したら結婚を考えたいが、結婚できるほどの安定が来るのが心配。	男性
子どもが欲しいけどお金がかかりそう。	男性
1人でも生きていける人間でありたい。	男性
今の自分では異性と付き合う自信がなく、結婚による長所よりも短所の方を意識してしまっている。	男性
結婚に対する興味があんまり湧かないのは普通なのかそれとも良くないことなのか分からない。もし良くないことなら治したい。	女性
自分自身は結婚する必要が無いと思うが、親には「良い人を見つけて欲しい」「孫を見たい」と言われるため、親の願いを叶えるためにも結婚はすべきなのかも感じる。	女性
結婚できるか不安です。	男性
結婚したら自分の好きに生きづらくなる。楽しいのは若いうちだけ。	男性
結婚したら大変そう。	女性

図表 32 理想の結婚相手(敬称略)

2023年度

順位	男性	支持率	順位	女性	支持率
1	有村架純	7.7%	1	中村倫也	6.1%
2	新垣結衣	7.0%	2	大谷翔平	5.4%
3	浜辺美波	6.3%	3	賀来賢人	4.8%
4	橋本環奈	5.6%		ムロツヨシ	
5	永野芽郁	4.2%	5	鈴木亮平	3.4%

参考:2018年度

順位	男性	支持率	順位	女性	支持率
1	新垣結衣	10.5%	1	つるの剛士	4.3%
2	石原さとみ	4.3%	2	藤本敏史	3.4%
3	吉岡里帆 広瀬すず	3.7%	3	菅田将暉	3.1%
			4	高橋一生	2.9%
5	佐々木希 深田恭子 有村架純	3.1%	5	坂口健太郎 山崎賢人 西島秀俊	2.6%